

ずいそう

愛すること、好きなこと

森 勝 信



三年前急性心筋梗塞で人生を終わりにかけた。意識を回復しその時の様子を聞かされたとき、好きなゴルフをしていて、特に苦しむこともなく（家族に言わせると苦しそうで見ておれなかったそうだが）、アッというまに人生を終われたら本望、幸せだったのに、と冗談を言ったら家内に大分怒られてしまった。その事があってから入院中時々だが「人生の最後の言葉」はなんとと言えば良いのだろうと考えた。もし家族或いは友を前にして「最後に一言どうぞ」と言われたらなんと言うだろう？ などと馬鹿げたことを考えたものである。「ありがとう」などのお礼の言葉は別として少なくとも前向きの言葉としては「幸せだった」「思い残すことはない」「悔いはない」など、人生57年を振り返ってどれが適切な言葉だろうか。「思い残すことはない」は如何にも自分中心の生活を送って来たようだし、「悔いはない」はなんとなく不満もあるが、「やったんだ」と自分に無理に納得させようとしている感じもする。やはり自分と家族或いは友も含めて周りとの関わり全部との意味で平凡ではあるが「幸せだった」が良いのではと思った。

大学を卒業するとき饒の言葉として尊敬する先輩から「三惚れ」の言葉を戴いた。

『これからの人生には色々な事があるでしょう。その人生のなかでいつも三つのことに惚れる努力をしてください。このことが貴方の人生を豊かで、楽しく、幸せなものにしてくれます。

一つは、その土地に惚れてください。

二つは、その仕事に惚れてください。

三つは、これから結婚するでしょう、その女房に惚れてください。』

だったと思うが、その時は特に気にしなかった。

私は仕事で何回も転勤した。最初の転勤は兵庫県の伊丹だった。古いものと新しいものが入り混じってゴミゴミしていて、飛行機の音がうるさく、敷金、家賃は高く、大阪弁のうるさ型の大家さんで嫌な所に住むことになったと思った。ところが義母が来て「便利で生活しやすくよいところね、大家さんも面倒見の良い人のおかげでいろいろ教えて貰いなさい。二人ともなんにも知らないのだから。」そう言われてみれば、住めば都だった。歴史の町京都、奈良、商人の町大阪、港町神戸、華の宝塚に近く、飛行場の騒音はNHKの視聴料、財政補助は水道代を無料にしてくれた。

うるさ型の大家さんは苦しいものではあったが若い夫婦にゴミの出し方、家の周りの掃除のやり方、挨拶、幼児の遊ばし方まで親切に教えてくれた。そう思うと生活が楽しくなった。京都、奈良を歩き宝塚で子供と遊んだ。なるほど、「土地に惚れる」とはこのことだ

と思った。折角その土地に住むのだからその土地を好きになり歴史や特徴を楽しむことだと思った。福岡では有田や伊万里の焼き物を、熊本では釣りを教えて貰った。仙台では温泉めぐりを、そして旭川の零下25度も家族でウィンタースポーツや雪遊びで楽しい勤務地となった。

仕事はもともと好きで選んだ道でありこれが自分の天職だと言い聞かせた。新しい仕事につくと、まずこれまでの経緯を含めて知識について勉強した。物知りになりその知識を基にやり方、問題点、解決法を考えた。周りの人がなにかを聞きにくるようになると後は自然と勉強するし、仕事が面白くなる。また周りの人を好きになることに気がついた。

いろいろな上司にお仕えしたが、最初にまずこの上司が自分を認めてくれたから此処へきたのだな、と思うことにした。性格、癖、態度、言葉使い、など個々を観ると好き嫌いがでやすいので、より全体として自分より識能、経験豊かな上司、年長者であると尊敬することにし、自ら近づくことに努力した。失敗などでひどく叱られたりした時はできるだけ翌日に必ず何かの形で接触する、言葉を交わすようにした。これは大変効果的で気持ちにけじめが付き、すっきりした気持ちで仕事に取り組めた。人間同士なんとなく好き、嫌いの相互作用があるのは事実で、そのせいか嫌いでも堪らなかった人もいなかったし、意地悪をされたこともなかった気がする。

最後の「女房に惚れる」は、いまさら言う迄もない。人生の2/3は家庭、家族との関わりにあると思う。よい仕事をやるためにも女房が支えてくれることが、そのためには女房を大切にす、愛することが大切である。残念ながら一人の女房だけの経験であるが私の場合は仕事柄、転勤が多く気分転換となり、新鮮な気持ちを維持し易かったこと（新しい人間関係、環境が苦痛にならない配慮、特に夫が転勤にナイーブにならない、楽しむ。性格にもよるが）、逆に未知の世界に飛び込む只一人の相方意識がお互いを頼りとしたことが幸いしたと思う。日本人が安全と水は無料だと思っていた時代がすでに終わったように、「女房、子供が喰えるのは俺のお陰じゃないか」の気持ちは一日でも早く棄てることである。

人生「三惚れ」に励み、最後に少なくとも女房の手を握って、さだまささんの「関白宣言」の歌じゃないが「良い人生だった。幸せだったよ」と言って先に逝きたいものと願っている。